

標準委員会 リスク専門部会 津波PRA分科会
第13回津波PRA分科会議事録

1. 日 時 2012年5月24日（木） 13:30～17:00

2. 場 所 （財）電力中央研究所 大手町第四会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員）山口主査（阪大），蛭沢副主査（JNES，中途出席），桐本幹事（電中研），
秋山委員（CTC），木下委員（保安院），喜多委員（TEPSYS），
倉本委員（NEL），黒岩委員（MHI），杉野委員（JNES），佐竹（鈴木委員（原
技協）の代理），関沢（竹山委員（中電）の代理），中井委員（JAEA），成
宮委員（関電），西尾（藤本委員（JNES）の代理），
松山委員（電中研），美原委員（鹿島建設），守屋委員（日立GE）（17名）

（欠席委員）安中委員（東電設計），佐竹委員（東大），高田委員（東大），平野委員（東京
都市大）（4名）

（常時参加者）坂田（GIS），安田（関電），菊池（四電 宮本代理），杉本（東電）（4名）

（傍聴者）小山（電発），博田（THコンサルティング）（2名）

（敬称略）

4. 配付資料

RK2SC 13-1	第12回津波PRA分科会議事録（案）
RK2SC 13-2-1	評価適用例 別冊 項目整理（案）R2版
RK2SC 13-2-2	サイト・プラントウォークダウンに参考とする実例
RK2SC 13-2-3	ルブライエ発電所の浸水事例 資料
RK2SC 13-2-4	Plant Life Management Activities in 2005 and Forth Coming Tasks
RK2SC 13-2-5	India' s HWR Activities
RK2SC 13-2-6	Flash Historic Flood
RK2SC 13-2-7	フォートカルブーン原子力発電所（米国）におけるミズーリ川 の氾濫について
RK2SC 13-2-8	東北地方太平洋沖地震およびその後に発生した津波に関する女 川原子力発電所の状況について
RK2SC 13-2-9	評価事例集原稿案
RK2SC 13-2-10	津波PRA手法におけるフラジリティ評価事例 -進捗状況報告-
RK2SC 13-2-11	A CRITICAL REAPPRAISAL OF NUCLEAR POWER PLANT SAFETY AGAINST ACCIDENTAL AIRCRAFT IMPACT
RK2SC 13-2-12	津波ハザード評価からフラジリティ評価までの流れ及び評価精 度（案）
RK2SC 13-2-13	津波PRAの事故シーケンス試解析事例
RK2SC 13-2-14	大飯発電所4号機の安全性について
RK2SC 13-3	津波PRA分科会主要スケジュールについて（案）

参考資料：

参考1 第12回津波PRA分科会議事メモ（案）

参考 2 第 2 回津波 PRA 作業会メモ

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 20 名中 15 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数（14 名以上）を満足している旨が報告された。

(1) 議事録確認

前回議事録について、資料 RK2SC 13-1 に基づいて桐本幹事から説明があり、承認された。

(2) 津波 PRA 標準を受けた適用事例集の作成について

はじめに、資料 RK2SC 13 参考 2 により、桐本幹事から評価適用事例集の配布形態、編集の仕方及び項目整理についての説明があった。

次に、資料 RK2SC 13-2-1 により、桐本幹事から項目整理について、これを目次にしようとしていること、個々の項目については前回の分科会および作業会でのコメント反映したことなどの説明があった。

これを念頭に入れて、各適用事例集の確認を行った。

資料 RK2SC 13-2-2 により、安田常時参加者から女川原子力発電所における東北地方太平洋沖地震での津波による影響と津波対策の実効性の例及びインド マドラス原子力発電所におけるスマトラ島沖地震での津波による影響の例、関沢様（竹山委員（中電）の代理）から津波による影響ではないが、浸水事象の例としてフランス ルブレイエ原子力発電所における洪水による影響の例の説明があった。福島と東海第 2 の事例も入れる

資料 RK2SC 13-2-6 により、関沢委員代理からフォートカルフーンについての説明があった。事実関係を書いて資料を添付することとなった。

資料 RK2SC 13-2-9 により、松山委員からハザード解析事例の説明があった。本資料のものを 1 ページ目を書いて、2, 3 ページくらいに土木学会の目次を書くこととなった。 fragility 評価関係は美原委員に編集してもらうこととなった。

資料 RK2SC 13-2-10, 11 により、美原委員から fragility の説明があった。 α の式については、実際の適用範囲を書くこととなった。

資料 RK2SC 13-2-12 により、美原委員から津波ハザード評価から fragility 評価までの流れ及び評価精度の説明があり、 fragility パラメータ（ハザードと fragility の連続性）についての評価手法についての議論が行われた。

資料 RK2SC 13-2-13 により，西尾委員から説明があった。「単位津波高さあたり」の説明を付けることとなった。

資料 RK2SC 13-2-14 により，安田常時参加者から操作ごとの所要時間の例の説明があった。このような評価例があるということ載せることとなった。

(3) 今後の予定等について

資料 RK2SC 13-3 により，桐本幹事からスケジュール等の説明があった。

適用事例集を5月末までにまとめ、6月を目処に出すこととしている。

6/1に専門部会で，このような内容であるということ報告する。今回の資料は桐本幹事に提出する。標準委員会の前に一度，分科会を開き，標準委員会に備えることとする。

評価事例集の完成形は9月とする。

将来，付属書に入れるかどうかは本会で検討し，販売は学会に任せる。

評価事例は付属書に入れるべきとなったら可能なように付属書のフォーマットを真似して作っておく。付属書には一括して入れるというものではなく，章毎・項目毎に判断して入れていく。

次回，第14回分科会は6月14日午後開催予定，場所は原技協か電中研とする。

以 上